

主催
第4回ドローンレースチャンピオンシップ実行委員会

主管
(一社) みらいキャリア研究所

事務局
NPO 法人ソーシャレック
AkitaDroneClub

後援
湯沢市
湯沢市教育委員会
湯沢商工会議所

協力
秋田県立湯沢翔北高等学校

協賛企業様

株式会社 **クツザワ**

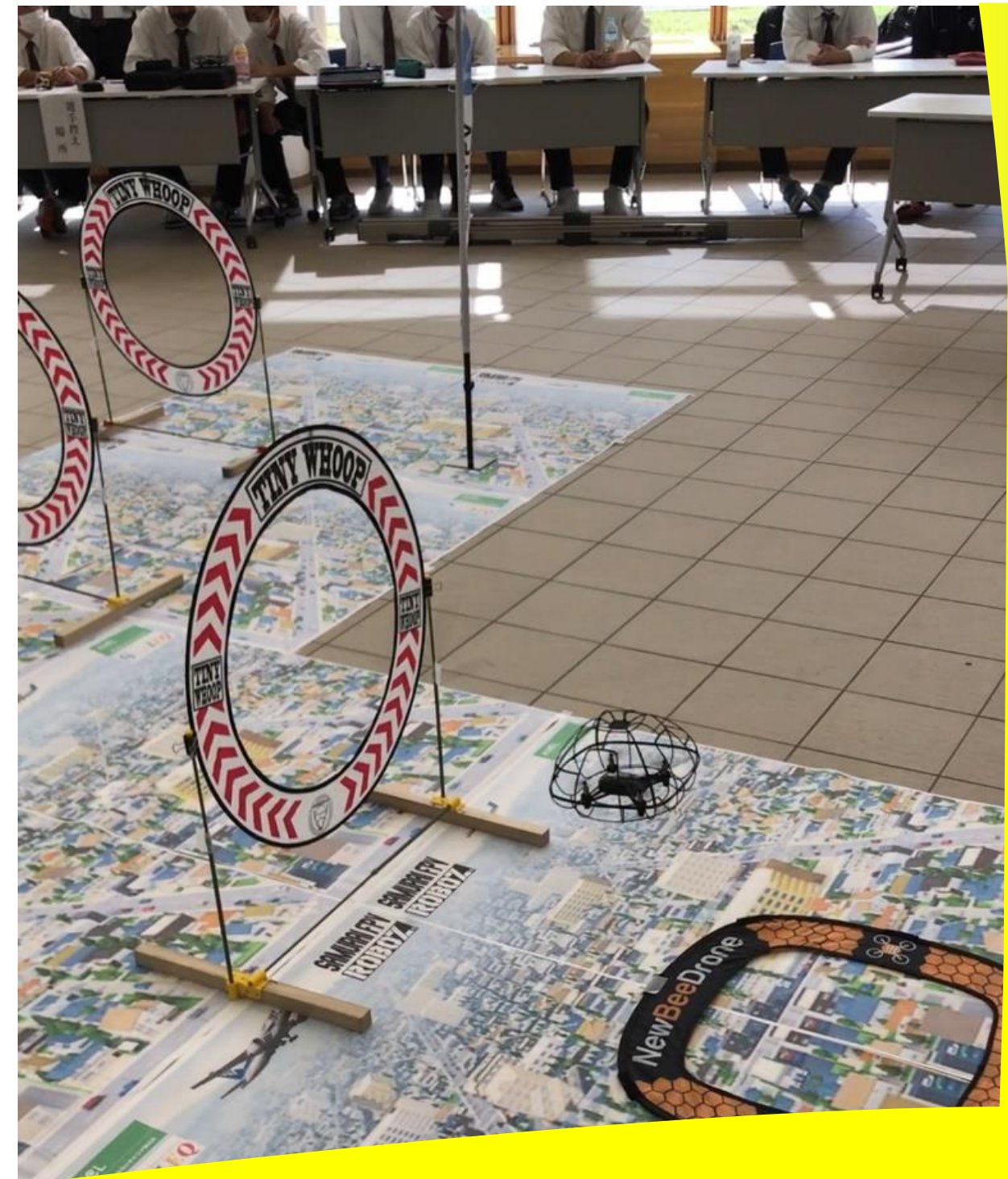
 **スターサービス**

SAMURAI FPV

 株式会社小野建設

 TAKASHIMA 株式会社 高嶋組

ROBOZ®



第4回 ドローンレースチャンピオンシップ in Yuzawa

湯沢市役所
2022年10月1日

第4回
ドローンレースチャンピオンシップ
in Yuzawa

AkitaDroneClub
(一社)みらいキャリア研究所
NPO 法人ソーシャレック



プログラミング部門

今年はプログラミングに挑戦

今年から始まったプログラミング部門には小学生と高校生 16 名の選手が参加、2〜3 名のチームでプログラミングによるドローンのフライトにチャレンジしました。

3 分間の競技時間でフィールドに配置された 4 個のゲート & フラッグをドローンで通過、正確にスタート地点への着陸が目標！昨年までの操縦の正確さを競う競技と異なり、正確なアルゴリズムの構築とプログラミング技術、デバッグをする技術が要求されます。参加した選手はチームで声を掛け合って、プログラムの改良しました。

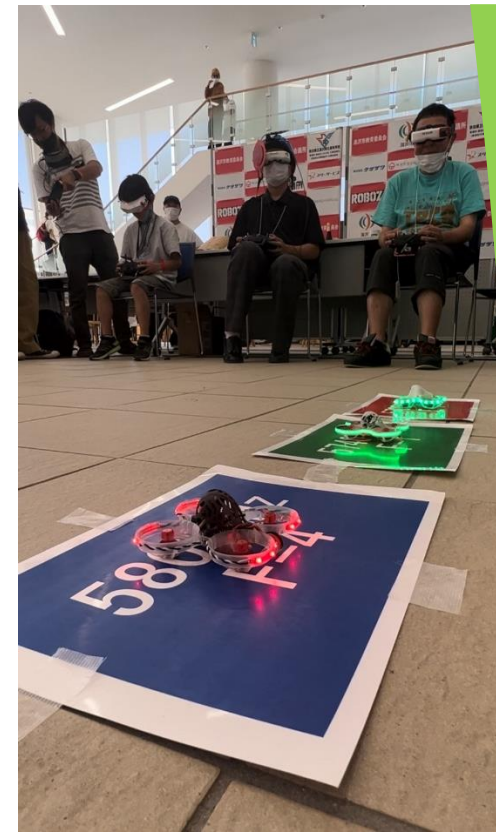
ドローンを飛ばせるようになったら、競技を楽しみながらステップアップ！AkitaDroneClub は若年者パイロットの技術向上を応援しています。

FPV 部門

「空を自由に飛びたいな♪」

「空を自由に飛びたいな♪」というアニメの主題歌があるように、空を自由に飛ぶことは人類にとって長年の夢でした。そんな夢をかなえることができるのが“マイクロドローン”です。機体には超小型カメラと画像送信機を搭載、パイロットはゴーグルに映し出された映像を見ながら、あたかも空を飛んでいるような目線で操縦することができます。

マイクロドローンには高度維持機能も周囲の物体を検知するセンサーもありませんが、パイロットの腕次第で自由自在にフライトすることができます。



FPV とは？

「FPV」は「First Person View」の略で、「一人称視点」という意味です。FPV ゴーグルを着装して、ドローン搭載のカメラが映す映像をリアルタイムで見ることができます。まるで自分がドローンの操縦席にいるかのような感覚を味わえる機能です。

あたらしい「技術」への挑戦

ベーシック・ミドル部門

レギュレーション

- ・使用する機体は DJI 社 TELLO（アイアンマンエディション、EDU 含む）とする。
- ・使用するモーターやバッテリー、プロペラは DJI 純正品または純正同等品（純正と同一形状、性能のもの）のみとする。飛行性能の向上する可能性がある改造は一切認めない。
- ・機体全体を覆うことができるプロペラガードの装着を必須とする。



プログラミング部門記録

ミドル部門（高校生）

- 1 位 武藤栄昇、泉谷仁、佐藤大星
- 2 位 井嶋遥都、本多貴成
- 3 位 摂津晴也、小場有真
- 4 位 小田嶋哲生、黒澤元稀

ベーシック部門（小学生）

- 1 位 渡邊義斗、渡邊義典

大会動画 FPV 部門



FPV 部門記録

エキスパート部門（FPV）

- 1 位 山本 悠貴（東京都）
- 2 位 増谷 正人（埼玉県）
- 3 位 小出 隆之（新潟県）
- 4 位 五十嵐朝哉（山形県）
- 5 位 大村 楓空（大阪府）
- 6 位 播磨 靖之（秋田県）
- 7 位 瀬戸 昌洋（新潟県）
- 8 位 渡邊 義典（秋田県）



40g の戦い パーツの組み合わせは無限大
テクニックとセッティングで最高のパフォーマンスを引き出す

今年は 7 都府県から 18 名のドローンレーサーが湯沢市に集結。

今大会からブラシレスモーターの使用が解禁、機体へ LED の装着が必須となり、色とりどりに輝くドローンが庁内を所狭しと飛び飛び回りました。「全国まるごとどんエキスポ」も同日に開催。全国からの来場者が見守る中、競技が始まると大きな歓声があがりました。



ドローンを始めるにはいくらかかる？

今回の大会で使用したドローンを準備するのに金額です（目安）

・プログラミング部門

DJI（TELLO）¥12,980-

・FPV 部門

機 体 BETA FPV NewBeeDrone など
完成品 ¥15,000-から
プロポ FUTABA ¥25,000-から
ゴーグル FatShark ¥50,000-から
他に充電器、バッテリー、工具などが必要になります。

マイクロドローンを飛ばすために必要な免許

マイクロドローンを操縦するための免許はありません。ただし、FPV ゴーグルを使う場合、5.8GHz 帯の電波を使用するため、「第 4 級アマチュア無線技師」以上の免許を取得し、FPV で使用する送信機を登録しているアマチュア無線局を開設する必要があります。